

東南アジアにおける日本語教師の統合型協働モデルの構築と新しい教師研修の開発

Designing an Integrated Collaborative Model and New Teacher Training Program for Teachers of Japanese Language in Southeast Asia

中山 英治（NAKAYAMA Eiji）

■本研究の概要

海外の日本語教育現場では日本語非母語話者教師（Non-Native Teacher, NNT）と母語話者教師（Native Teacher, NT）と一緒に仕事をする「協働」を行っている。東南アジアでは学習者が増加し学習法も多様化しているが、それに対応できる日本語教員の育成や研修、質の高い協働実現のための教師間協働の研究は少ない。本研究はタイとベトナムを対象とし NNT と NT の協働体験を統合して協働モデルを構築する。このモデルと現地の協働実践を照合・検証するために必要な検証シートと NNT の新たな役割や価値を反映した行動特性表を開発して、モデルと開発ツールをまとめて研修会で公開する。研修会における統合型協働モデルの活用法は「理想的／規範的活用」と「典型的／近似的活用」を用意して実践者の「あんな協働をしてみたい、協働にチャレンジしたい」という思いをすくいあげ、振り返りを支援できるようにする。本研究が遂行されれば、協働を軸とした安定かつ持続可能な教師研修が可能となる。

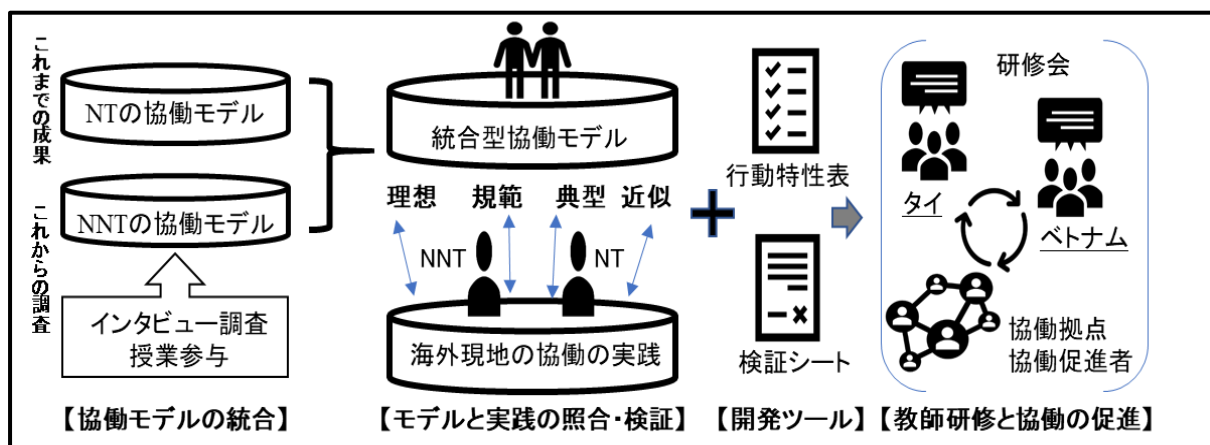


図 本研究の概要図

■新たな研究課題の生成

本研究に先行する以下の2つの研究成果から、新たな研究課題が生成できた。

- 1) 門脇薫・中山英治・高橋雅子（2021）「タイ人教師と日本人教師のよりよい協働を

実現するために必要な要素－高校における事例より－』『間谷論集』第十五号,pp1-21,日本語日本文化教育研究会

- 2) 高橋雅子・中山英治・門脇薫 (2021) 「タイの日本語教育における協働への意識－非母語話者教師と母語話者教師のインタビューより－」『外国語教育研究』第 15 巻,pp1-12, 都留文科大学語学教育センター

課題の 1 つめは、高校と大学における教師間協働上の異なりを意識することである。分業が中心の大学では、NT がよりよい協働のための情報共有を求めても NNT がそれを拒む場合がある。一方、協働 (Team Teaching) が基本となる高校では、「協働相手への気遣い」や「協働相手に頼る姿勢」といった構成概念が抽出され、より緊密な関係の構築が教師間協働に必要であることが明らかになっている。

課題の 2 つめは、NT と NNT の協働における意識を探ると、協働の良さを認識しつつも、お互いに外的な要因により与えられた業務の枠にとどまっている現実があることである。

■2020 年度 (令和 2 年度) の進捗と今後

上の新たな研究課題を具体的に考察するためには、これまであまり研究が進んでいなかった NNT の協働に関する研究や調査が必要になるという認識から、本研究で調査の対象国としているベトナムの教師間協働の整理整頓を行うための勉強会を開催した。

2021 年 4 月 10 日 (土)、10 時～

場所：オンライン (Zoom)

参加者：研究代表者と研究分担者、研究協力者の総計 12 名 (うち NNT は 4 名参加)

内容：自己紹介→本科研の内容説明→話題提供の講義→質疑応答

この勉強会ではベトナムの学習者の増加と日本語教師不足や教師の資質について、詳しく講義がなされた。また、教師間協働の熟成しているタイの研究などを参考にして、ベトナムにおける課題の提案を行い、「ベトナムの NT と NNT はお互いにどのような役割を協働において求めているのか」、「ベトナムにおける協働の実態とその問題」などを調査する必要があることが明らかになった。

今後は、この勉強会の成果をふまえて、ベトナムの他機関の状況や先行研究の多いタイの事例をさらに収集して、東南アジアにおける教師間協働の統合型モデルの構築を進めて、現地における新しい教師研修を企画・開発していきたい。